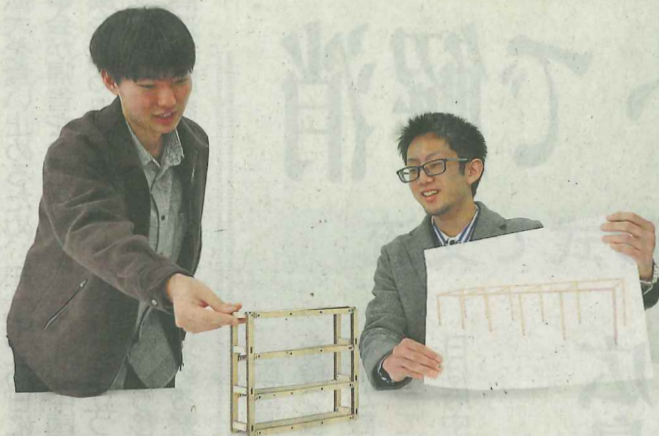


アイデア木製品 全国入選



広島工業大生の2人考案

備蓄庫の棚→間仕切り 災害時に変形

木製の日用品を災害時、

変形させて役立つアイデアを競う全国コンペで、い

ずれも広島工業大(広島市佐伯区)4年の黒河真さん

(21)、佐藤航平さん(21)の2人が考案した作品が入選

した。避難所で被災者のプライバシーを守るため、備

蓄庫に備える棚を分解してパーティション(間仕切り)

として活用するアイデア。西日本豪雨時の避難所の状

況から着想を得た2人は「入選を励みに実用化を目

指す」と意気込んでいる。入選したのは、第2回ウ

ッドトランスフォームシステムコンペティション(日

備蓄庫の棚をパーティションに変形させるアイデアを説明する黒河さん(左)と佐藤さん

本木材青年団体連合会主催)の一般部門。全国の企業、大学などから寄せられた138点の中から上位8点に選ばれた。入選したのは県内で初めて。

同大環境学部建築デザイン学科で学ぶ2人は、避難所となる体育館などの公共施設にある備蓄庫で、非常食や毛布などを置く棚に着目。棚を分解し、その部材

を使って五つの個室空間をつくる案を考えた。

構造や強度の検証を重ね、高さ1・8㍎、幅約2

・0㍎、奥行き0・6㍎の棚を設計。変形後、個室空間は1カ所当たり高さ約1

・8㍎、幅と奥行き各約1

・9㍎となる。前後や両隣は布などで仕切る。組み立て作業に工具を使わない工夫もした。

2人はコンペに、提案書とともに10分の1サイズの模型を応募。現在、実物大の制作を試みている。

避難所でのプライバシー確保は災害時の大きな課題の一つ。「実際に避難所で役立ててもらうのがゴール」と黒河さん。佐藤さんも「個室の実用性など、まだまだ磨きを掛けられる」と力を込める。(木原由維)